

カンボジア
中央カルダモン森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2016年5月
コンサベーション・インターナショナル

中央カルダモン保護林管理計画

カンボジアの国全体で、森林保全を担当する政府の体制が変更になるという大ニュースがありました。中央カルダモン保護林の管理を監督する省庁は、森林局から環境省に移行する予定です。そのため、作成中だった五カ年計画の完成を遅らせ、新しい体制を踏まえた計画とすることになりました。この移行は、大きな変化であることは間違いありませんが、中央カルダモン保護林の管理や地元コミュニティとの協働に悪い影響を与えるものではありません

トラストファンド（基金）

トラストファンドの設立セレモニーが、1月15日にプノンペンで開催されました。政府関係者、ドナー、プレス、NGO、民間企業が参加して、カンボジア政府やダイキン社、CIのCEOがスピーチをしました。中央カルダモン保護林に関する映像も流されました。トラストファンドでは、1千万ドルを集め、その運用益で持続的に、取り締まり、調査、コミュニティ支援をまかなうことを目標に掲げています。

パトロールと違法行為への対応

新しいパトロール戦略を改善しながら遂行しています。

最大18名のレンジャーが、ロレック地域を中心とした一ヶ月に及ぶ大規模な不法占拠、違法伐採、密猟の取締りを実施しました。取り締まりを継続することで、違法者がまた戻ってくることを防いでいます。ロレック地域だけで、7か所の違法キャンプを撤収、森林伐採されようとしていた70ヘクタールの土地を守ることが出来ました。中央カルダモン保護林のその他の地域では、373回のパトロールを実施し、2台のトラクター、24台のチェーンソー、42個の高級木材、29個の罟、7匹の猿、そして5匹の亀を押収しました。

中央カルダモン保護林の北部と南部を担当する森林局マネージャー、CIとそのパートナーの代表で構成される中央カルダモン保護林管理チームは、今も毎月集まって、日々の業務を管理し、収集されたデータやレンジャーの活動を確認しています。これは保護林の管理が環境省に移行

された後も続けていきます。レンジャーたちには、ブーツ、ヘルメット、ハンモックや雨具が配給され、ロレックにあるレンジャーステーションには新しく井戸もできました。

ダイキン社の支援により、コミュニティによるパトロールが続けられています。アロワナ（ドラゴンフィッシュ）の池とシャムワニの保護区に焦点をあてています。60名（内2名は女性）がのべ90日間以上のパトロールを実施しました。



左) レンジャーパトロール、右) コミュニティパトロール © Jeremy Holden

トレーニング

レンジャーたちに、SMART（地理情報をパトロールに活用するツール）に関する復習、GIS（地理情報処理システム）の扱い方、コンパスや地図の読み方に関するトレーニングを行いました。

カメラトラップデータ

カメラトラップによるデータ収集を続けています。データを世界的に絶滅がセンザンコウの保全に役立てるため、IUCNのセンザンコウ専門家グループ（<http://www.pangolinsg.org/>）とカメラトラップによるデータの共有を開始しました。また、CIが中心的役割を務めている「熱帯生態系アセスメント・モニタリング・ネットワーク（TEAM）」のカメラトラップグループとの連携も開始し、カメラトラップで取得されたデータをより効果的に活用するため、ソフトウェアの改善に貢献しています。



カメラトラップの設置 © Jeremy Holden

前回のレポートでも報告した、カメラトラップによって撮影されたアジア像の映像 (<https://youtu.be/XGI THR8aD-o>) を、トラストファンド設立セレモニーの際に紹介したところ、ガーディアンや BBC などの国際マスメディアでも紹介されました。

コミュニティ主導型のエコツーリズム (Community Based Eco-tourism)

Tatai Leu 村でコミュニティ主導型のエコツーリズムの開発を続けています。Tatai 川のエコロジとの協力が始まり、今後、観光客が増え、またホテルのレストランでの地元産のバナナワインの利用により地元経済の発展につながることを期待されます！



Tatai 川 © Conservation International/Photo by Chanthon Cheb

観光情報センターも完成し、ハイキングルートの設定が完了しました。バードウォッチング、バナナワイン作り、ジャングルキャンプ、ボート遊びや釣りなどの活動をエコロジと検討しているところです。

Tatai Lau 村だけでなく、近隣のコミュニティとも、どのような取り組みが出来るか相談を続けています。村の間レンタサイクルを始めるといった案が挙がってきています。

レンジャーとコミュニティの提携戦略

中央カルダモン保護林の管理監督責任が環境省に移行するにあたり、コミュニティとどう連携するか、今後明らかになる環境省の方針に沿うよう計画を改訂が必要になります。一方で、レンジャーチームは、シートを使った毒蛇の見分け方を子どもたちに教えるといった取り組みを進めています。コミュニティによる森林パトロールをサポートするためのコミュニティとの会合も開催されています。

コミュニケーション

中央カルダモン保護林ニュースレターの第一号が、トラストファンドの設立時に発行されました。すでにレンジャーたちに配布され、フィードバックも受けています。レンジャーたちとのコミュニケーションに役立っています。